

2020年6月15日

新型コロナウイルス感染拡大予防対策を講じたスポレク大会の開催について

特定非営利活動法人
長崎県レクリエーション協会

1 はじめに

「令和2年度ながさき県民総スポーツ祭 スポーツ・レクリエーション祭 2020in いさはや」の開催にあたり、各大会を主管する種目団体(加盟団体)においては、新型コロナウイルス感染拡大予防対策を講じた大会の開催の開催について留意願いたい。特に各種目団体から出されている競技上のガイドラインは、熟読をねがいたい。今回、開催にあたり、基本指針を示すことになったが、リスク管理とスポーツを楽しむことの提供にあたり、バランスを図り計画をして頂きたい。

なお、本通知は、発送時点での関係省庁・団体のガイドラインをもとにしているため、今後の状況によっては見直しがあることも付記しておく。

2 全ての活動に共通する対応(共通事項)

- ・本対応は、大会やイベント、講習会や会議、各種施設等、幅広いレクリエーション活動における総体的な感染防止対策について、実施体制、3密(密集・密閉・密接)、衛生の面から示している。
- ・共通事項とあわせ、個別事項を参照し、感染防止を徹底する。

① 実施体制

- ・大会等実施時において、感染症防止対策の実施に責任を持つ「対策実施責任者」を選任。
- ・感染防止が行われているか確認できる「チェックシート(※参照)」を用意。
- ・参加者の氏名、年齢、住所、電話番号を把握(発症時における迅速な利用者の追跡のため)。
- ・参加者に感染拡大防止(マスク着用、会場での手指消毒、人との距離をとるなど)の対応。
(例)・大会募集時や最終案内にて感染拡大防止の周知。
- ・受付時の健康確認(発熱のある方その他風邪症状がある方は参加を控えて いただく。)
- ・受付や会場内に感染拡大防止の協力を啓発するポスター・張り紙の掲示。等
- ・イベントの前後のミーティングや懇親会等においても、3つの密を避け、会話時にマスク を着用。

② 衛生対策

- ・入口及び施設内に手指消毒設備を設置。
- ・適宜手洗いができるような場の確保。
- ・会場は十分な清掃に努める。
- ・用具および機材、机、椅子、ペン、バインダーなど、不特定多数が触れる部分は、事前事後に消毒を行う。
- ・共有物品を最小化。
- ・ごみの回収者は、必ずマスクや手袋を着用し、処理後は手洗いをを行う。
- ・喫煙所の利用を禁止する。

③ 密集対策

- ・人との距離確保(できるだけ2m、最低1m)。
- ・密集とならない会場レイアウトの設定。(例)・入場導線、待機場所、控室、更衣室など十分な導線や空間の確保。
- ・入退場など、原則として一方通行の流れをつくる。
- ・椅子を使用する場合は、持ち運びできる椅子は席と席の間隔を空けて設置 し、固定席は前後左右の隣接する席を空けて使用等。

- ・入場者数を制限し、滞在時間を短時間とした運営。
 (例) ・人と人との距離の確保がとれる、ゆとりのある人数で行う。
- ・イベントの進行を過密にしないタイムテーブルの設定。
- ・開催時間の縮小の検討。・開閉会式は内容を簡素化し、通常の半分以下の時間とする方法を検討等。
- ・スタッフ休憩は時間と場所を分散した休憩、食事等の徹底。

③ 密閉対策

- ・頻繁な換気。

(例) 2方向の窓開けによる通気の良い換気、自動ドアの常時開放、換気扇の常時稼働、扇風機の外部へ向けての使用等。

④密接対策

- ・マスクの着用。

(例) ・指導者や発言者、スタッフはマスクを着用。ただし、呼吸困難や熱中症防止のため、適宜休憩をとりマスクを外す場面をつくる。

- ・参加者は受付、着替え、開閉会式等の運動を行っていない間、特に会話をするときには、マスクを着用等。

- ・受付等、人が密接する場面における対応。

(例) ・人と人が対面する場所は、受付スタッフと受付をする参加者の距離を最低 1m離すか、アクリル板・透明ビニールカーテン等、パーティションで遮断。

- ・列の間隔を確保(最低1m)する床サインなどを実施。

- ・代表者が行うなど、必要最少人数とする。

- ・インターネットやスマートフォンを使った電子的な受付の一層の普及を図り、受付場所での書面の記入や現金の授受等を避けるよう努力する等。

- ・ハイタッチや握手、声援は控える。

3 各種レクリエーション活動における対応(個別事項)

(1)レクリエーション種目

①ゴルフ(グラウンド・ゴルフ、ターゲット・ハートゴルフ、パークゴルフ等)

- 屋外種目で密閉の機会が少なくなる一方、滞在時間が長かったり、開閉会式や休憩時間の食事、組(グループ)で行動する等密集や密接の機会があるゴルフの特性から、以下の感染防止対策を実施。

- ・プレースタイルを変更し、滞在時間を短縮。

(例) ・通常3ゲーム(ラウンド)のところ、2ゲーム(ラウンド)とする。

- ・通常36ホールのところ、18ホールとする。

- ・開閉会式は距離の確保がとれない場合は中止とする等。

- ・1組の人数は4人以内とし、距離の確保を常にとる。

- ・プレー以外(食事や会話をするとき等)はマスクを着用。

- ・スコアカードの記入は個々または1人で行う。

- ・ゼッケンやペン等多くの人が共有する物の使用はできるかぎり控える。

- ・クラブ、ボール等は自分のものを使用する。貸し出す場合は、使用前後に消毒する。

②ダンス・体操(ボールルームダンス、3B 体操等)

- ダンスは輪をつくり向かい合って踊ったり、手をとりあって踊ったりと身体的距離が近く、体操は用具を使用したりすることから、以下の感染防止対策を実施。

- ・サークルや対面した場面での発声の禁止。または発声する場合はマスクの着用。

- ・発声者同士、または発声者とそれ以外の者との間隔を2m以上確保。

- ・飲食の提供はできるかぎり控えるか、衛生面の対策を講じて提供する。
- ・マイクの使い回しは避けるか、消毒を徹底する。
- ・体操で使用する用具は自分のものを使用する。貸し出す場合は、使用前後に消毒する。
(例) ・食事やお菓子を提供する場合は、小皿に取り分ける等多数の人が共有する大皿等の提供を避ける。
- ・飲料を提供する場合は、ペットボトルや使い捨ての紙コップで提供する。
- ・飲食物を取り扱うスタッフはマスクを着用等。

③テニス(ハウンドテニス等)

○ 狭い場所でも手軽にできるレクリエーション種目の各テニスは、屋内で手軽にプレーできるよう、通常のテニスよりコートが小さくなっているため、各コート間が狭かったり、コートの大きさに対する人数の割合が高くなってしまふことから、以下の感染防止対策を実施。

- ・人との距離の確保を意識したコート設営や選手・審判・スタッフの配置。
- ・審判が使用するホイッスルは、笛型より電子ホイッスルを推奨。
- ・ラケットは自分のものを使用する。貸し出す場合は、使用前後に消毒する。

④球技(インディアカ、ドッジボール、ラージボール卓球、ドッジビー、雲仙アズマクロス等)

○ 1つのボール(球)を参加者が共有する衛生面のリスク、団体行動による密集・密接の機会、また、ほかの種目より子どものプレーヤーが多いため保護者による応援等、球技ならではの特性から、以下の感染防止対策を実施。

- ・多数の者が触れるボール(球)を使用する場合は、手で目・鼻・口等を触らないようにすること。
- ・ボール(球)は適宜消毒する。
- ・観客同士が密とならないよう、あらかじめ観客席の数を減らす。
- ・大声での声援を送らないことや会話を控える。会話をする場合にはマスク着用
- ・審判が使用するホイッスルは、笛型より電子ホイッスルを推奨。
- ・バットやグローブは自分のものを使用する。貸し出す場合は、使用前後に消毒する。
- ・ゼッケンといった多くの人が共有する物の使用はできるかぎり控える。

⑤ 的当種目(ペタンク、スポーツウエルネス吹矢、ローンボウルズ、クップ等)

○ 的を目標けて、投げる・滑らす・転がす・吹くといった動作を行う種目で、用具を参加者が共有することで生まれる衛生面のリスク、特に、吹矢は飛沫感染のリスクをできるだけ低減することが重要であり、以下の感染防止対策を実施。

- ・用具を重点的に消毒する。
- ・多数の者が触れる用具を使用する場合は、手で目・鼻・口等を触らないようにすること。
- ・ゼッケンといった多くの人が共有する物の使用はできるかぎり控える。
- ・スポーツウエルネス吹矢は、くしゃみや咳等で生ずる飛沫感染と同じようなことが起こるため、特に感染防止策が必要である。

(例) ・ペタンクのボール、ビュット、メジャー。 ・スポーツウエルネス吹矢の的面。

⑥対面種目(スポーツチャンバラ等)

○ 対面式のレクリエーション種目であり、特に対戦相手と近接するリスクを考慮し、以下の感染防止対策を実施。

- ・打突競技といった接触が想定される対面場面をできるだけ避ける。
- ・用具を重点的に消毒する。
- ・観客同士が密とならないよう、あらかじめ観客席の数を減らす。
- ・大声での声援を送らないことや会話を控える。会話をする場合にはマスク着用。
- ・多数の者が触れる用具を使用する場合は、手で目・鼻・口等を触らないようにすること。

・エアソフト剣等はできる限り自分のものを使用する。

⑦野外(キャンプ・サイクリング等)

○ これらの種目は公園や道路を使用するため、自分たちの感染防止対策はもちろん、一般の方への配慮も求められることから、以下の感染防止対策を実施。

・人が多い場所や時間を避ける。

・サイクリングは大人数やグループではなく、一人で走り、可能な範囲でマスクやバフの着用も検討する。

また、集合場所や、始点、休憩所、終点にできるだけ手洗い場を確保する。

・キャンプでは、マスクを着用するか、距離の確保をとる。また、食事前、帰宅後には、こまめな手洗い、うがいを励行。

・遠方は避け、身近な自然や近所で楽しむ。

・不要な入院や通院を避けるため、ケガのリスクの高い活動や身体的に負担のかかる挑戦的な行動は行わない。

・運動中に唾や痰をはかない。

・ゴミは全て持ち帰り、トイレは家ですませておく。

(2)レクリエーション指導(研究フォーラム:福祉レク、お手玉等)

①児童・生徒・学生

○ 児童(小学生)は幼児期と比べ友達との関わりが濃くなる、生徒(中高校生)は様々なレクリエーションを楽しむようになる、また、学生(大学生)はそれらに加え、自身もボランティア活動を通してレクリエーションに携わる機会が増えるといった特性から、以下の感染防止対策を実施。

・相手と対面したり身体接触するようなレクリエーションは控える。

(例) ・キャッチ、ジャンケンハンカチ取り、タイ・タコ等の少人数遊び。

・ジャンケン列車、木こりとリス、ことろおに等の集団遊び。

・対面式のスポーツ・レクリエーション等。

・3密を避けるレク活動や、家でできるレク活動を実践又は紹介する。

(参考) ・(公財)日本レクリエーション協会「レクぽ」内の「学校で三密を避けて楽しめるレク活動」や「おうちの中で楽しめる運動・あそび～子ども向け～」

・指導中及び指導前後においても、子ども同士の密度を下げ、不要な接触を避ける。

・指導者が使用するホイッスルは、笛型より電子ホイッスルを推奨。

・できる限り大声を出さないようマイクを活用する。

・準備及び片づけにおいて、近距離になる状況避ける。

・呼気が激しくなるような運動の際は、常に窓を開放する等、より十分な換気を行う。

・ハイタッチや握手等の身体接触を避ける。

・共有する器具を重点的に消毒する。

(例) ・ドッジビー、円盤ディスク、ドッジボール等。

・ボードゲーム(マンカラ、オセロ、将棋、囲碁等)。

・カードゲーム(トランプ、かるた、スキヤキ・ジャンケン等)。

・マット、跳び箱、鉄棒、平均台、遊具等。

・多数の者が触れる用具(ボール等)を使用する場合は、手で目・鼻・口等を触らないよう指導する。

・ボランティアとして活動する際は、感染防止対策を行うスタッフとしての心構えを持つ。

・安全安心で元気な指導が望ましい。

②高齢者

○ 高齢者は健康に対して関心が高く、体操や脳トレ、歌唱、種目等、屋内外問わず幅広いレクリエーションを行い、活動が終わった後の懇親も楽しみの一つである。また、感染後のリスクが高いことを十分に考

慮し、以下の感染防止対策を実施。

- ・参加者の健康状態をチェックし、少しでも体調が悪い場合は、参加を遠慮してもらう。
- ・密集を避ける工夫。(例) ・通常の指導時間が1時間のところ、30分とする。
- ・歌唱者同士、または歌唱者とそれ以外のものとの間隔を2m以上確保。
- ・大声又は大人数での歌唱、声援行為は、屋外又は、少人数ごとに分けて行う。
- ・隊形はスクール形式が望ましい。
- ・相手と対面する場合は必ずマスクを着用。
- ・身体接触するようなレクリエーションは控える。
- ・指導者はマイクを活用し、できる限り大声を出さないよう配慮する。
- ・家でできるレク活動を実践又は紹介する。

(参考) ・(公財)日本レクリエーション協会「レクぽ」内の「おうちの中で楽しめる運動・あそび～シニア向け～」

- ・指導後の懇親会等において、3つの密を避け、会話時にマスクを着用。
- ・指導が終わったら、必ず手洗いをする。
- ・クラフト等の際は、はさみやのり等の道具は、参加者ができるだけ準備をする。
- ・新聞紙、牛乳パック、折り紙等の消耗品もできる限り参加者が準備することが望ましい。
- ・レクリエーション用具で共有する用具は重点的に消毒する。

(例) ・お手玉、ワナゲ、ディスク等。

- ・ボードゲーム(マンカラ、オセロ、将棋、囲碁等)。
- ・カードゲーム(思い出カルタ、江戸いろはかるた、スキヤキ・ジャンケン等)。
- ・健康ボール、ジャンボサイコロ等。

- ・心が元気になるよう、安心感を持った温かい指導が望ましい。

③障がい者

○ 障がいの種別は様々であり個別の対応が求められることから、以下の感染予防対策を実施。

- ・参加者の健康状態をチェックし、少しでも体調が悪い場合は、参加を遠慮してもらう。
- ・障がいの種別に応じた工夫。(例) ・視覚障がい者は、タオル等を利用して人との距離をとる。
- ・聴覚障がい者は、可能であれば透明マスクやフェイスシールドを使用する。
- ・知的障がい者は、大きくカラフルなコーンを目印に使い人との距離をとる。
- ・肢体不自由者は、人との距離をとる会場レイアウトの設定等。
- ・その他、個別に応じた感染防止対策を行う。
- ・指導者はマイクを活用し、できる限り大声を出さないよう配慮する。
- ・身体接触するようなレクリエーションは控える。
- ・手遊びや歌遊び等をする際は、参加者同士、又は指導者と参加者との間隔を2m以上確保。
- ・指導が終わったら、必ず手洗いをする。
- ・共有する用具を重点的に消毒する。

(例) ・円盤ディスク、ソフトバレーボール等。

- ・パラシュット、エアボール等。
- ・ペタンク、ボッチャ等。

- ・安心安全にリラックスして、笑顔あふれる指導が望ましい。

(3)レクリエーション体験の集い

○ 様々な世代や業種の方が参加することが想定される体験イベントでは、運営面のリスク、用具を介しての接触感染や、一定の場所に密集しやすくなるリスクをできるだけ低減することが重要であり、以下の感染防止対策を実施。

①防止対策 具体的な例・留意点

運 営

- 「感染症防止対策責任者」を1名選任する。
- 「新型コロナウイルス感染症対策実地チェックシート」を活用。
- イベント当日に、参加者から以下の事項を書面にて求めることが重要。
 - ・氏名、年齢、住所、電話番号 ※個人情報の取扱いに十分注意。
 - ・イベント当日の体温 ※当日受付において検温する際は、非接触式体温計を推奨。
 - ・咳やのどの痛みなど風邪の症状、濃厚接触の有無、海外渡航歴の有無等。
- 感染者が発生した場合、保健所等の指示のもと、そのほかの参加者に対して 連絡をとり、症状の確認をする等調査に協力すること。
- 参加者に感染拡大防止の協力を啓発するポスター・張り紙の掲示等。

密 集

- ・通常のイベント時間が4時間の場合は、2時間とする。・体験コーナー同士の間隔を十分空ける。
- ・受付や体験コーナーに並ぶ際は、列の間隔を確保(最低1m)するようコーンやテープ等で目印をつける。
- ・受付等、人と人が対面する場所は、机を2つ挟んで対応するか、アクリル板・透明ビニールカーテン等、パーティションで遮断等。

密 閉

- ・屋内で行う際は、常に窓やドアを開放するか、換気設備(業務用エアコン等)を利用等。

密 接

- ・大声での発声や歌唱等があるアトラクションや、近距離での会話が想定される余暇相談コーナーや似顔絵コーナー等は、感染予防対策が講じれないと判断した時は実施しない等。

衛生面

- ・退場の際は、必ず手洗いや消毒を徹底させる。・参加者が触れる用具(ドッジビーやボール等)は適宜、消毒する。余裕があれば、消毒済みのものを用意しておき、1組ごと取り換える等。・参加賞は小分けにする。

心 得

- ・参加者とスタッフの間隔が離れてしまうため、いつもよりさらに笑顔を絶やさず、参加者が安心して参加できるような雰囲気をつくるのが大切。

4 まとめ

本年度の大会開催については、これまでの大会開催と大きく異なる準備や運営が必要とされる。事前の準備において、実行委員会などを開催し、本指針をもとにしっかりと準備をして頂きたい。

なお、本大会開催における、具体的な協会の対応については、7月開催の種目団体代表者会議において、説明を行う予定である。

5 参考資料

- ① 公益財団法人日本レクリエーション協会
「新型コロナウイルス感染拡大予防対策ガイドライン」 5月28日版
- ② スポーツ庁
「スポーツイベント開催・実施時の感染防止策チェックリスト」